

東京国際空港の取組について

はじめに

本資料中に掲載しております「2022年の鳥衝突件数」は、鳥衝突情報共有サイトの統計データから抽出した数値となっておりますが、確定前段階の数値を採用しているため今後航空局のデータ精査により変更となる可能性があります。

また「離着陸 1 万回当たりの鳥衝突率」は、確定前段階の数値を用いて算出しているため、今後航空局のデータ精査により変更となる可能性があります。

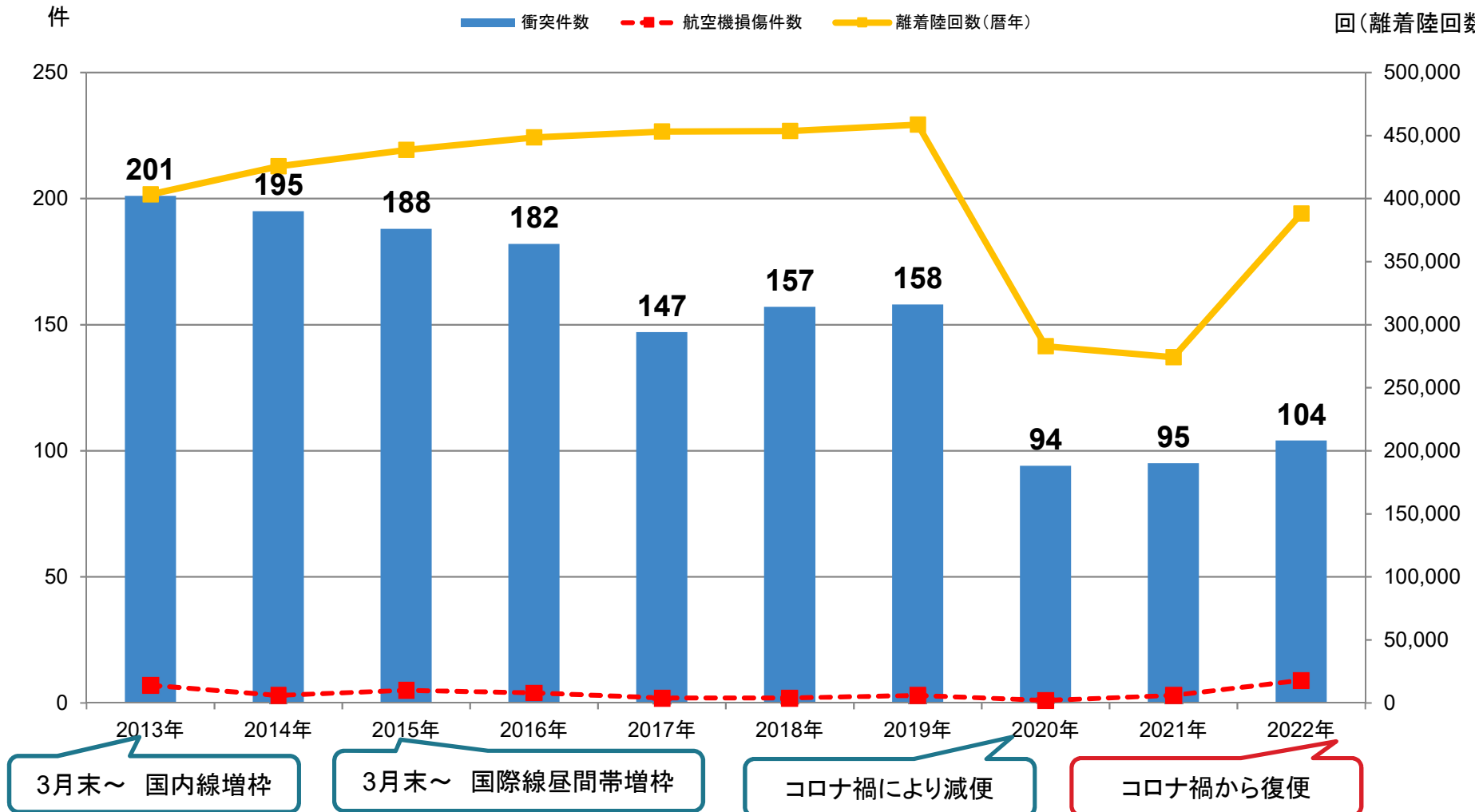
以上について、予めご承知おき願います。

東京国際空港の鳥衝突の傾向－(件数)

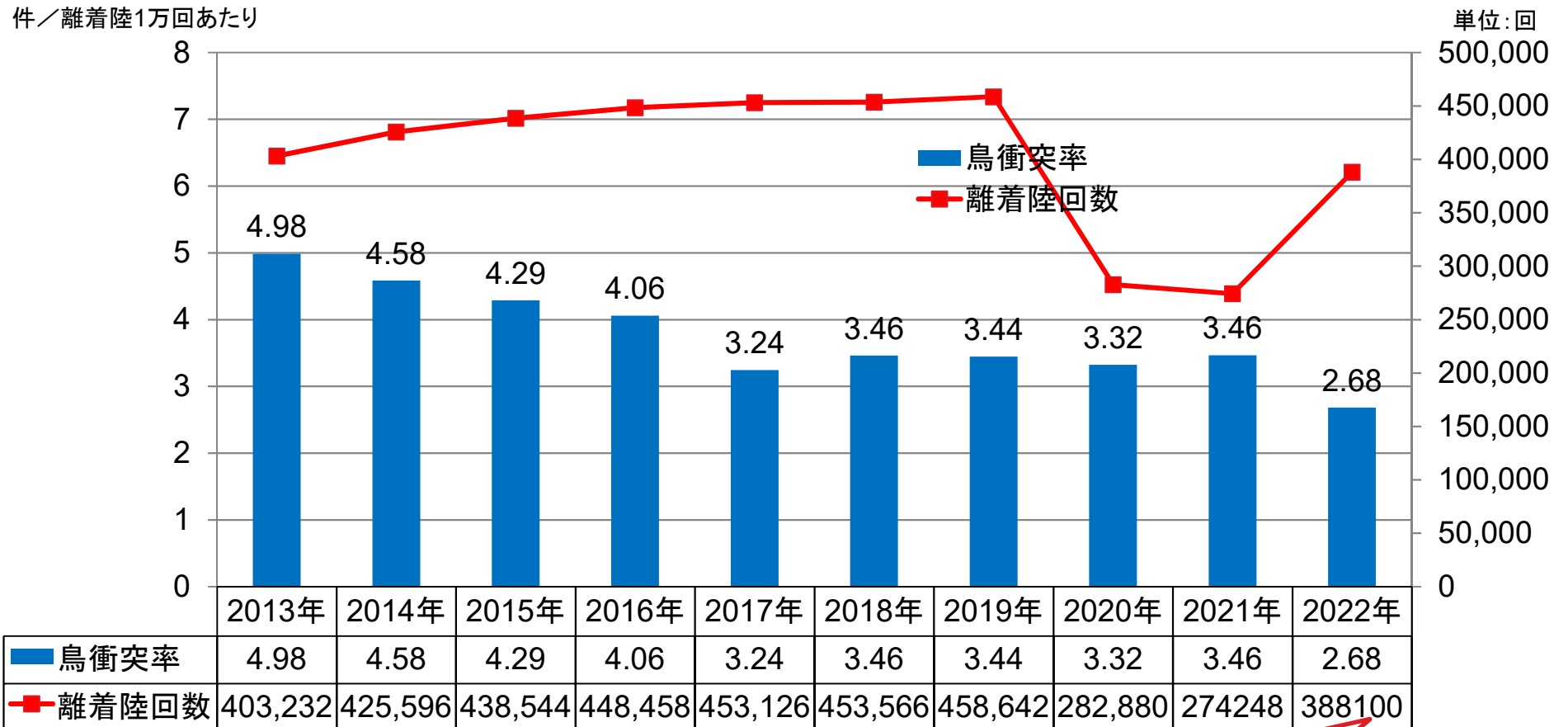
衝突件数の推移(2013年 - 2022年)

(暦年)

回(離着陸回数)



離着陸1万回あたりの鳥衝突率の推移(2013年-2021年)



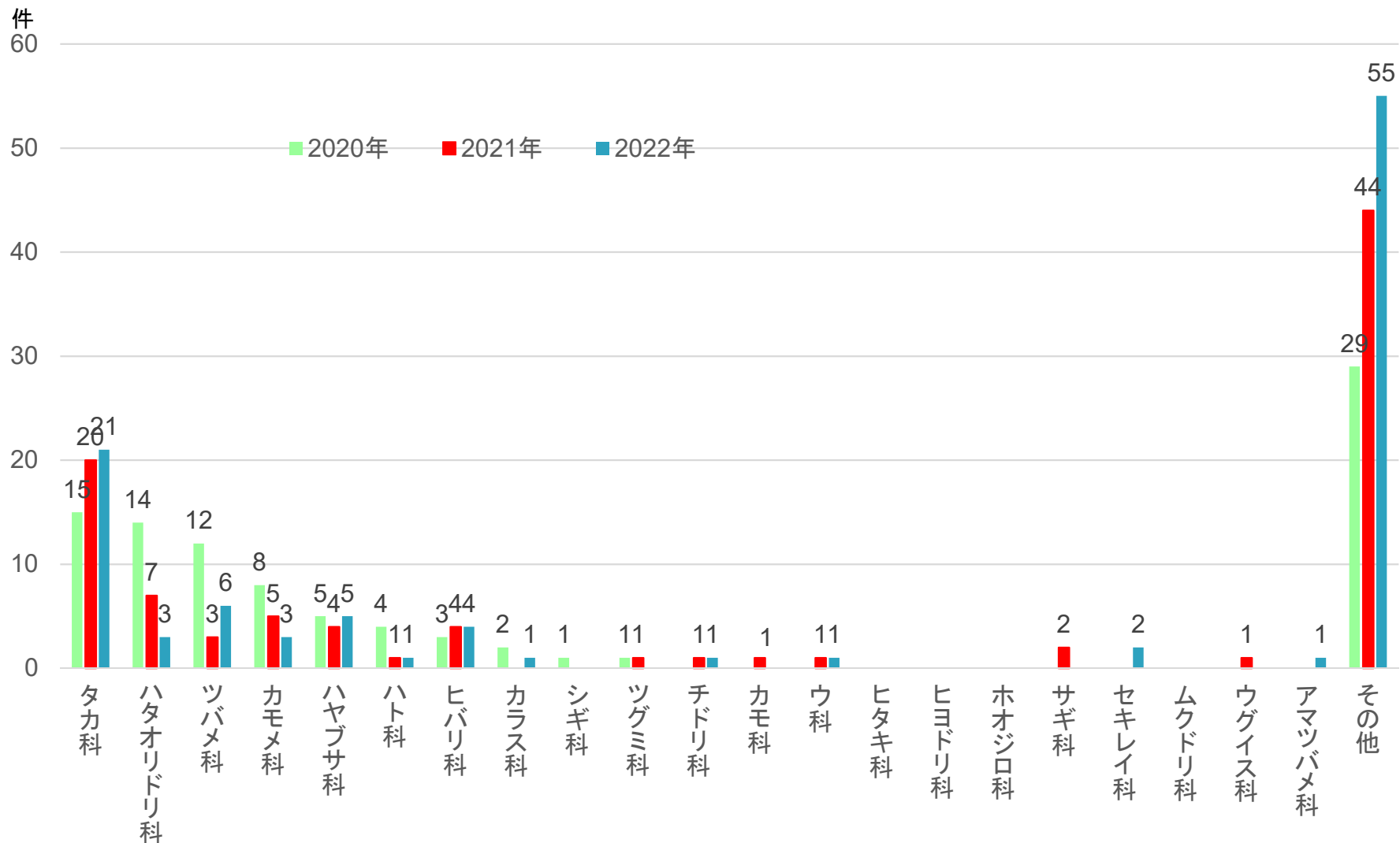
※離着陸1万回あたりの鳥衝突率＝鳥衝突件数×10,000÷離着陸回数

約11.4万増

前年比較として

- 離着陸回数は復便に伴い大幅に増加
- 鳥衝突率は(微減3.46⇒**2.68**)

鳥種別衝突件数(2019/2020/2021 1月-12月)



※鳥種不明: 2020年29羽、2021年44羽、2022年55羽

令和4年度 東京国際空港の主な取り組み①

コアジサシ営巣防止対策

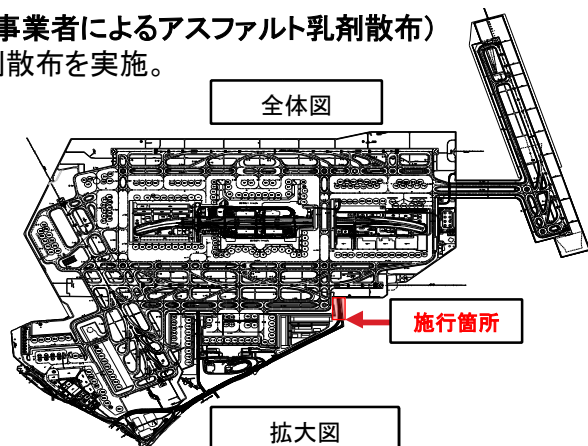
(概要)

コアジサシはカモメ科に属するアジサシの仲間で環境省のレッドリスト(2006)では絶滅危惧Ⅱ類、種の保存法では国際希少野生動植物種に指定されており、営巣の可能性がある工事による裸地ができる場合、コロニーが形成される前にコロニー形成を回避する必要がある。一度、営巣してしまうと工事の着手及び追い払いが出来なくなるため鳥防除対策を実施した。

(今後の対応)

アスファルト乳剤散布等環境対策を実施した箇所において、コアジサシの営巣は見られなかった。引き続き土砂地平面の調査を行い、乳剤散布もしくはテグス及び吹き流しの設置を実施する。

(工事業者によるアスファルト乳剤散布) 乳剤散布を実施。

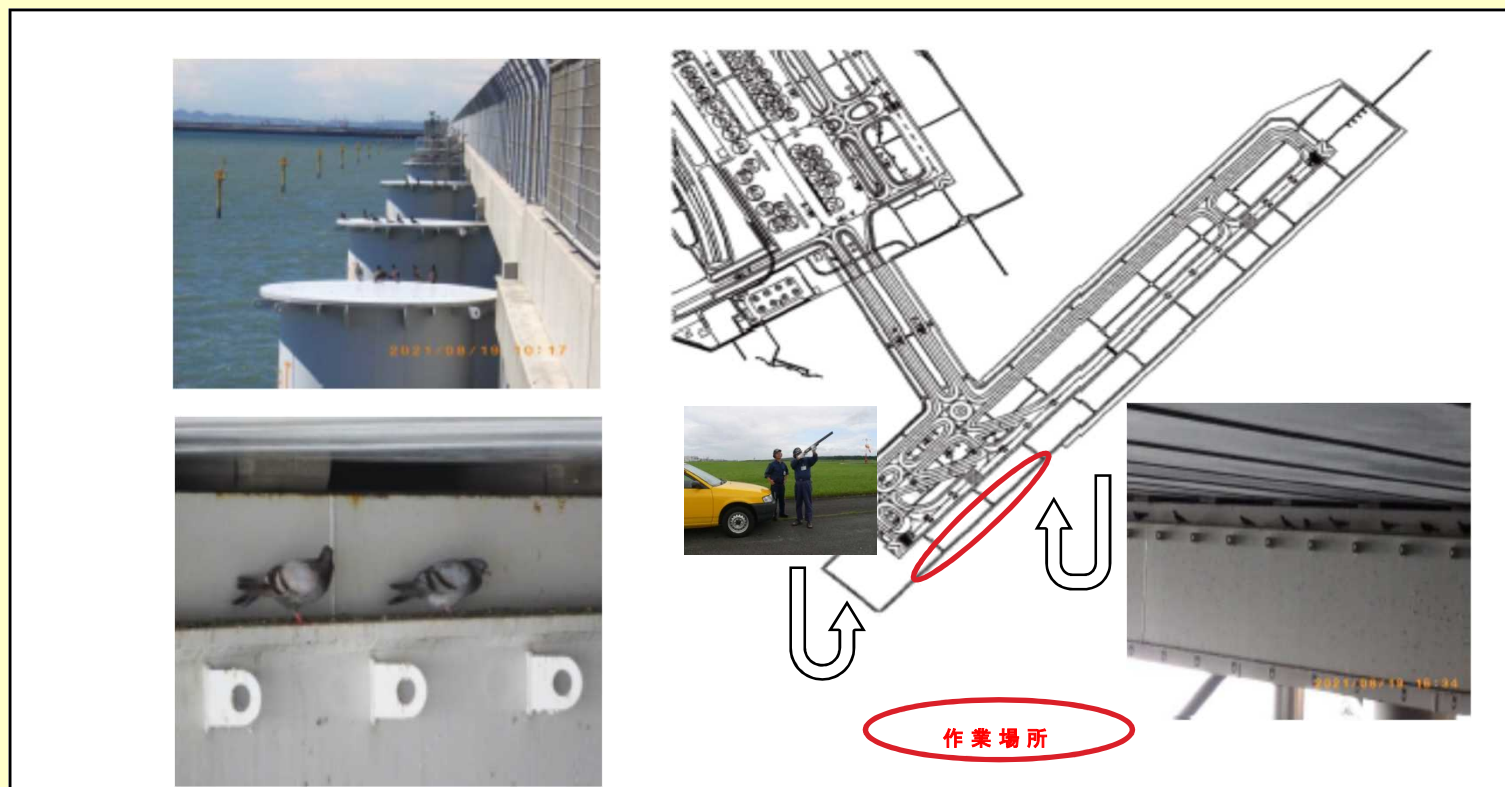


施工後(アスファルト乳剤散布)



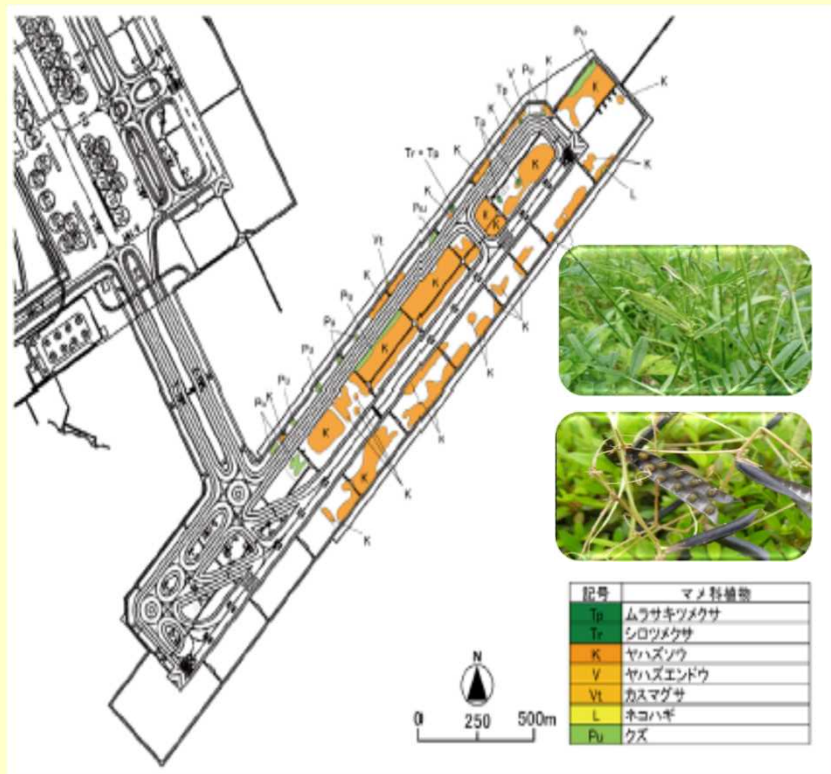
D滑走路人口下部のドバト増利用阻止対策

- 理由 : ドバトによる鳥衝突および出現があり令和3年度に調査した結果、D-RWY下部(棧橋・埋立部)にドバトが増として日常的に利用しているだけでなく、D-RWY付近への出入りが確認され、繁殖の可能性も示唆されるため。
- 作業員 : 保安協会第二東京事務所(バードパトロール)
- 作業時間・場所 : 日中帯・場周道路
- 作業内容と方法 : 場周道路フェンス越しに下部に向け空砲および煙火による防除(追い払い)



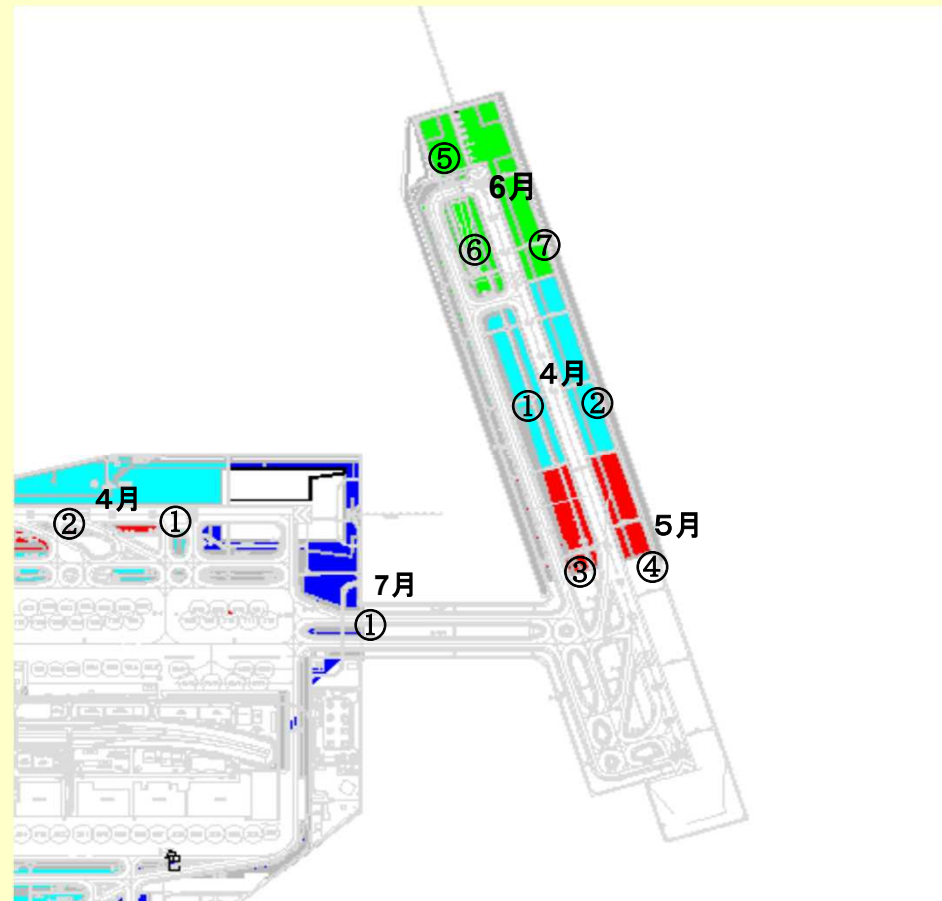
D-RWY付近マメ科結実排除対策

理由:ドバトやカモ類等を誘引する一因となるクローバー類やヤハズエンドウ、スズメノエンドウなどのマメ科植物
結実期(7月頃)前の4月から集中的に除草作業を実施



令和3年度特定鳥種の衝突防止に関する調査報告書引用

マメ科植物の分布図



色別除草期

植生調査(ドバト等対策)

東京国際空港 A・B・C滑走路周辺の緑地帯において、ドバトやカモ類等を誘引する一因となるクローバー類やヤハズエンドウなどのマメ科植物の分布状況を明らかにするため植生調査を実施し、分布図を作成する。

調査期間: 2022年12月21日～2023年3月24日

東京国際空港 A,B,C滑走路エリアおよび周辺域



令和4年、5年度 東京国際空港の鳥防除計画

令和4年、5年度計画

令和4年、5年度における対策は、航空鳥害専門家及びバードパトロールよりハトの出現数増加が顕著である報告を受けて、令和3年度より実施しているハト対策について、現在実施している植生調査の結果を基に、誘引する一因となるマメ科植物等の開花時期に合わせて草刈りを実施して、環境対策を行う計画。

また、令和5年度中に、空港全体の生態基礎調査の実施を計画しており、現地での鳥の生態等に関する基礎調査を実施し、前述したドバト等に対する環境対策を含めた防除業務の評価を行うほか、より効果的な防除対策の提言を行う。



植生調査

A,B,C滑走路付近におけるヤハズエンドウ等分布図作成

※現在調査中

特定鳥種の動向把握のための基礎調査

野外調査

報告書

環境対策

防除対策

防除業務へ反映

定点観測による出現状況把握、これまで実施した防除対策の評価等

防除業務のより効果的な手法を提言